

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	取締役会における多様性がイノベーションと企業業績に与える影響
Author(s)	梁, 克為
Citation	広島大学マネジメント研究, 25 : 30 - 30
Issue Date	2024-03-26
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00055772
Right	Copyright (c) 2024 by Author
Relation	



取締役会における多様性が イノベーションと企業業績に与える影響

梁 克 為

1. はじめに

経済自由化、グローバリゼーション、顧客の需要の変化とともに、社会文化的・経済的変容は、労働力の多様性を大幅に増大させており、組織は労働力をより多様化させている。多様性がもたらす課題を解決して、多様性の効果を十分に引き出すために、本研究は取締役会における多様性がイノベーションと企業業績に与える影響を明らかにしようとする。

2. 先行研究及び仮説構築

2-1 表層レベル多様性と組織パフォーマンス

先行研究を踏まえて、本研究における多様性の定義を明らかにする。そして、定義による表層レベル多様性が企業や組織のパフォーマンスに与える影響をまとめて整理する。これにより、表層レベル多様性の効果を全面的に理解できる。

2-2 国籍多様性と組織パフォーマンス

先行研究の議論を整理して、国籍多様性がどのように組織のパフォーマンスに影響を及ぼすかを解析する。そして、仮説を抽出する。

2-3 性別多様性と組織パフォーマンス

性別多様性に関する議論をまとめる。先行研究を踏まえて、本文が性別多様性に対する理解を提出する。そして、性別多様性と組織パフォーマンスに関する仮説を立つ。

3. 分析方法

3-1 サンプルとデータ

サンプルの選択及びデータの出所を説明する。

3-2 変数の作成

本研究における使用変数の定義をまとめて説明する。

3-3 変数の説明

使用変数の詳細を説明する。各変数を選択する理由及び変数の捉え方について詳しく語る。

3-4 モデルの選択

多様性は個体の異質性である。個体の異質性は人のあらゆる特徴を含めている。多様性と組織パフォーマンスの検討する場合、研究モデルに投入していない個体の異質性がもたらす内生性問題をコントロールする必要がある。そこで、本節は内生性の定義、内生性の発生原因及び内生性をコントロールするために使用する固定効果モデルについて説明する。

4. 分析結果

4-1 各種統計量

サンプルの業界分布表及び記述統計量をまとめて説明する。

4-2 相関分析

各種変数の相関関係を表して見る。

4-3 Pooled OLS 分析及び VIF 検証

内生性をコントロールしない場合、各変数を用いて重回帰分析を行う結果である。そして、固定効果モデルを使用する時に見られない VIF 検証の結果も確認できる。

4-4 固定効果モデル分析

本研究における主な分析結果である。性別多様性と国籍多様性が Tobin's Q, ROE, ROA 及び特許出願数に与える影響を定量分析によって表す。

5. おわりに

5-1 結論

第四章の分析結果に基づいて、本研究の結論を出す。性別多様性が ROE にネガティブな影響を与える理由について分析する。国籍多様性が Tobin's Q にマイナス影響をする可能な原因を推測する。そして、性別多様性が ROE, ROA に異なる影響を与える結果から、性別多様性が財務パフォーマンスに影響するルートを推測する。

5-2 研究の限界

本研究の不足の点について述べる。例えば、本研究は短期的なパフォーマンスに焦点を当てている。長期的なパフォーマンスに関する検討が不足である。異なる種類の多様性に関する検討するが不足している。

5-3 今後の課題

分析結果に基づいて、今後の研究方向を示す。性別多様性が ROE, ROA に異なる影響を与える結果から、財務指標の異なる影響因子について詳細な検討が求められる。グループ異質性の研究を深化させる必要がある。多様性が短期的・長期的なパフォーマンスに異なる影響を与えている。そのため、多様性の影響の時間的変遷に関する研究も重要である。